

昭和23(1948)年～25(1950)年

奇怪な事件相次ぐ

1

帝銀事件:昭和23年1月26日



- 西武池袋線(当時は武蔵野線)の椎名町駅近くの帝国銀行(現みずほ銀行)椎名町支店で、中年の男が現れ、集団赤痢が発生したから予防薬を飲まなければならないと言って、全員に青酸カリを飲ませ、12人を毒殺、現金12万円と小切手を強奪した事件。平沢貞通

2

下山事件:昭和24年7月6日



- 1949年7月5日初代国鉄総裁の下山定則(48歳)が、午前9時38分ごろ、東京・日本橋の三越本店に入っていたまま、行方不明になり、翌6日午前0時26分ごろ、常磐線綾瀬駅付近の線路上で、ばらばらの懐死体で発見される。
- 同月4日、国鉄は3万余人の首切りを発表し、さらに6万人を超える第2次首切りを予定し、国鉄労組の反対運動も高まりつつあった。
- 政府は、いち早く、下山の死は他殺の疑いがあり、国鉄労組や日本共産党の関係者がかかわっているかのような言動を行う。

3

三鷹事件:昭和24年7月15日



- 国鉄中央線三鷹駅で無人電車が暴走し死者6名負傷者20名をだした事件
- 翌日、吉田内閣は「社会不安を起こしているのは一部の労組であり共産主義者の扇動によるもの」と声明した。
- 16日、国家警察本部と東京地検は、首切り反対の首謀者が計画したとみて三鷹電車区の労働組合員計11人が逮捕されたが、10人が共産党員であった。

4

松川事件:昭和24年9月27日



- 福島駅を定時に発車した旅客列車が、金谷川・松川間のカーブにさしかかった際、先頭機関車が脱線転覆し、2名が死亡した事件。

5